

国際なかまDAY  
International  
NAKAMA DAY  
In TONDABAYASHI  
CHUO-KOMINKAN  
富田林市立中央公民館

第9回

# アジアの 映画まつり

9/22 sat.  
23 sun.

◆ 「知らない二人」

(2007年、日本/飯森 良平監督/28分)

※2006年度富田林市立中央公民館主催

「多文化共生を映像作りから考える」講座受講生による作品

◆ 「モン族の少女 パオの物語」

(2006年、ベトナム/ゴー・クアン・ハーイ監督/97分)

◆ 「ラミアの白い風」

(2003年、レバノン  
ランダ・シャハル・サツバグ監督/80分)

◆ 「エリアナ、エリアナ」

(2002年、インドネシア/リリ・リザ監督/83分)

映画解説：金 秀吉 (映画監督)

富田林市立  
公会堂

入場無料

申込み不要・直接会場へ

主催：富田林市立中央公民館 (☎0721-24-3333)

富田林市立公会堂案内図



近鉄阿倍野橋駅より「河内長野」行き準急行で35分  
「富田林西口」駅下車、東へ徒歩5分

※お車でお越しの方は、第3駐車場をご利用下さい。  
周辺道路はスクールゾーンにつき通行にご注意下さい

## ◆「知らない二人」

(2007年、日本/飯森良平監督/28分)

※2006年度富田林市立中央公民館主催

「多文化共生を映像作りから考える」講座受講生による作品

この映画は、平成17年度にとんだばやし国際交流協会が作った「どないしたん？」という冊子をもとに、「ことばの壁」を超えるコミュニケーションを映像作りから考えることを目的に、18年度中央公民館の講座として実施して作った映画です。脚本から監督・カメラ・キャスト・スタッフなど全て市民の手で作り上げた作品で、今年3月クランクアップし6月ようやく完成しました。

交換留学生として来日したスペイン人と図らずも母の代わりに面倒をみることになってしまった青年の数日間を描いています。



## ◆「モン族の少女 パオの物語」

(2006年、ベトナム/ゴー・クアン・ハイ監督・脚本/97分)

第4回ゴールデン・カイト賞4部門受賞

(作品賞・最優秀主演女優賞・最優秀助演女優賞・撮影賞)

第79回アカデミー賞外国語映画部門ベトナム代表作品

ベトナムの最北端、中国との国境地域に暮らす少数民族モン族の少女パオ、17歳。彼女には二人の母がいました。子どもを産む事ができなかったキア母さんと、子どもを産むために連れてこられ、家の中での居場所を見つけれず町へ出ていったシム母さん。ある日、育ての母キアは、真っ白い晴れ着のスカートだけを残してこつ然と姿を消してしまいます。残されたパオは、助けを求めて産みの母シムを探す旅に出るのでした。そして彼女を待ち受けていた、あまりにも切ない母たちの秘密……。

※昨年アジアフォーカス福岡映画祭で上映され、今夏、渋谷でロードショーされましたが、関西では今回が初めての上映になります。



2007

# アジアの映画まつり

会場：富田林市立公会堂

9/22 (土)

13:30 モン族の少女 パオの物語

15:30 知らない二人

16:15 ラミアの白い凧

17:50 エリアナ、エリアナ

9/23 (日)

10:00 知らない二人

10:45 エリアナ、エリアナ

13:00 解説：金 秀吉 (映画監督)

13:45 モン族の少女 パオの物語

15:30 ラミアの白い凧

17:00 知らない二人

※「知らない二人」以外は日本語字幕入りです

## ◆「ラミアの白い凧」

(2003年、レバノン

ランダ・シャハル・サツバグ監督・脚本/80分)

2003年ベネチア映画祭銀獅子賞受賞作

有刺鉄線で分断された、レバノンとイスラエルの国境沿いの村。16歳の少女ラミアは、結婚のため村のイスラエル側へと嫁ぐが、夫を愛することができず離婚して戻ってくる。そんな彼女に恋心を抱く、国境警備の若きイスラエル兵は……。愛は国境を越えることができるのか？



## ◆「エリアナ、エリアナ」

(2002年、インドネシア/リリ・リザ監督/83分)



久しぶりに再会した母と娘の葛藤を、首都ジャカルタでの一夜の物語に凝縮させて描いた大ヒット作。92年の「東南アジア映画祭」で注目を集め、今やポスト・スハルト世代随一の注目監督となったリザ監督の最新作。

**入場無料**

主催：富田林市立中央公民館

☎0721-24-3333

協力：(特活)とんだばやし国際交流協会  
富田林市中央公民館クラブ連絡会  
地域の国際交流を進める南河内の会 (モザイク)  
(財)大阪府国際交流財団 (OFIX)  
(財)国際文化交流推進協会 (エースジャパン)  
フィルム提供：ダゲレオ出版、国際交流基金